

諱話浮世風呂三編

上







中村文庫





浮世風呂ニ編自序

節風閣

丹前風呂の流と古今の瘡をいふ。

浮世風呂乃滑稽と今行のあはれ。

一も毫と一のな。吾孺記の案

東の海に潮をいふ。借て

と編は人々の心。書林の欲心



増長ぞうちやう〜〜需ゆ〜〜頻ちひからと。ヨットよつと美知みちの

幕まく湯ゆふ浴い。趣しゆ向かう有馬ありまけ温泉いんせういふ。

三寸さんせん週しゆ圍い乃胸むね乃中ちゆう。九尺くせき四方よしかたのの口くち

女め裡ら。筆ふであつあつ〜〜武ぶののも。工夫くふう

のの出い〜〜管くわんもものの。假令たしなひ揚雄やうゆうがが方かた

言がと圖記ず。半はんニニがが隱語いんごと鶉うのこ吞のふ



きむも。諸國へ入るる諸國の言法。

うのあごりてみる。謬誤ごしけが。便ち。

興お端もあごり。江戸乃奶奶が。

唇紅元。しり子。碓野郎。い気なま。悪。

態。京の老翁乃鼻鳴呼あ。

あのおお。あごりてみる。弱。



言もおもしろい。大坂の仕夫が何ぞ

と云ふ。跡なき。あ。

うらやま。湯と。固辭。省。氣。

色も。知。慧。を。絞。り。し。る。襦。袢。袋。衣。

四文。安。作者。十文。の。分。氣。

ふ。あ。う。り。て。癩。言。と。さ。く。し。る。り。



文化八年辛未乃夏四月本町  
延壽丹藥店ふもろく

式亭三馬戲題



又 德亭三孝書





江戸の早仕立  
本町二丁目式亭三馬製

秘の早仕立

初  
乃  
湯  
子

國  
道  
五

上ノ三





雪亭  
三冬  
香  
娘  
の  
袋  
子



女と女

湯中

子







學亭

三子

子

かゝる

娘と

さくみ

さくみ



假字例

○申とわらへし訓 眞とて「音とちれ類とて婦女子乃  
讀易とて要とてわらへし音訓とて不假字はひいと正とて  
○打を置なごり言○ちやあがなごり言乃屬と俗語  
に掛るゝ之雅俗乃異同ハ傍訓不從ひと會得あはし

當申年新作中形とて本日次

三 客者評判記殘編 三冊

忠臣藏偏癡氣論 全一冊

人間万事虚誕計 一冊

三千世界樂屋探 初編 全三冊

新語 柳髮 浮世床 初編全二冊

竹山とけしとてらとてなるわらへし物語  
のしとて出板申とて賣あはし  
式亭三馬戲作































ぢや。めつや益や〜ぬ。や拳けんヤ。で拳けん履ふの。めやら〜うて對あひて手てふ

あふねんり。あふぞと三下ふえてかゝるる。や拳けん〇で拳けん〜と

ゆのるゝの「上じやうや丸まるや。と。やの拳けんと付つはのがや拳けんさ。とてせて

九くで。とゞの字じと付つてらゝのづ。で拳けんぎッサ「そんさうらゆとらあのが

らう「おめ入いや。おらゝの。と。えん其連中そのれんぢう〜まじうら務兵つるべ請ま

さんさんの拳けん〜とんま。でも。やも秘入ひいり「ア大概たがいみ人ひととそめの組くみさ。

「そしておらゝが九くとらゝと美みひなならぬが。真まの拳けんとらゝの物ものの

一二三四五六七八九とらゝのぎッサ。五ごとらゝの七しちとらゝの

らゝえんさんまじうらゝとらゝのぎッサ。五ごとらゝの七しちとらゝの







張居るうら。さうでもよまづいみじま。養るのう。豊くしめらう。

ワうら移入浪流さんも奇麗なる春ぢやア移入声が早のまぢハ

牛一物で指先をまつおさほうとらる「ヲ」さむくあらう。移のま

這入らうぢやア移入「サア」這入らうトさうら「おめ入」らうが

這入るまら。おらうア出よう「ヲ」ヤあよほんま子ごの「ま」でも

のがせるらる。初まおく「ゆ」るも智あが移入「ゆ」で「た」妻の

「お」ぢやア移入「へ」よる「く」やておられ能はごの「お」らう。

風を引居るうら。初湯ごよまごうら。漸るれも出はらる。







さんざらうよ（後）じが（えいめ）知（し）の（の）た（た）の（の）射（し）から（か）ま（ま）し（し）ら（ら）あ（あ）ら（ら）な。  
 反吐（へど）鯨（げい）舎（しゃ）ど（ど）ろ（ろ）の（の）の（の）と（と）む（む）ど（ど）ろ（ろ）の（の）ゆ（ゆ）を（を）ま（ま）て（て）癩（らい）ふ（ふ）さ（さ）ら（ら）る（る）こと（と）た（た）ら（ら）  
 けき。それ（それ）ら（ら）居（い）溜（りゅう）ら（ら）移（い）へ（へ）ら（ら）下（さ）ら（ら）う（う）と（と）ま（ま）ら（ら）う（う）の（の）桃（たう）林（りん）の（の）内（うち）ぐ（ぐ）  
 り（り）あ（あ）ら（ら）ナ（ナ）ニ（ニ）あ（あ）り（り）や（や）ア（ア）。あ（あ）ら（ら）の（の）癩（らい）ど（ど）。氣（き）あ（あ）ら（ら）何（なに）も（も）移（い）へ（へ）ら（ら）。口（くち）の（の）悪（あく）を（を）持（も）て（て）居（い）る（る）人（ひと）ど（ど）と（と）ま（ま）ら（ら）う（う）が（が）。後（ご）く（く）つ（つ）き（き）合（あ）は（は）り（り）や（や）ア（ア）。今（いま）も（も）ぢ（ぢ）や（や）ア（ア）。株（くさ）  
 ごと（ごと）と（と）ま（ま）ら（ら）う（う）。耳（みみ）よ（よ）と（と）は（は）ら（ら）移（い）へ（へ）ら（ら）る（る）の（の）。あ（あ）の（の）爺（ぢやう）き（き）は（は）ら（ら）け（け）け（け）に（に）は（は）ら（ら）る（る）。さ（さ）。あ（あ）ら（ら）う（う）ア（ア）。常（じやう）不（ふ）の（の）言（ごん）言（ごん）と（と）ま（ま）ら（ら）う（う）人（ひと）と（と）ま（ま）ら（ら）う（う）が（が）。せ（せ）て（て）百（ひゃく）回（かい）を（を）  
 かる（かる）の（の）じ（じ）が（が）悪（あく）の（の）酒（しゆ）落（らく）き（き）け（け）中（ちゆう）も（も）あ（あ）ら（ら）う（う）と（と）ま（ま）ら（ら）う（う）の（の）。て（て）あ（あ）ら（ら）ま（ま）ア（ア）。百（ひゃく）七（しち）の（の）

おびとまら  
 ぶ  
 とつうまら  
 そのまま  
 ちり



















一番宛越向して積炬子の料理をせむと云ふは

う云てまゝに亦ふ何處よりひて案じてするに所がモウく様くそ

たましく縁入のよ「ヤ」のうきいも後入「ま」が雅文さん「新」い

煙盒を提げて出さうら。トスるとの火のれの中へ「ひ」を海老を

「細」枝アウ「ほ」して揚灰とんせせて中ふちよん「つ」と火の「ひ」である

形が海老の壳の赤い「あ」り「ま」る「ま」る「ま」る「ま」る「ま」る「ま」る

「ま」から酒孝さん「が」買立の耳盃の中へ「え」は「ま」る「ま」る「ま」る「ま」る

「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く

の「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く「ま」く



且ぐ。めさし。おはる。と。と。お。て。出。て。得。た。う。母。さ。と。操。ぐ。  
 傍へ。盡。く。と。其。中。が。け。け。山。の。雞。卵。の。ぬ。ぐ。く。さ。り。か。ご。  
 の。う。行。福。入。で。仕。合。な。ぜ。そ。ん。な。悪。洒。落。を。け。め。り。ん。じ。ら。う。  
 時。ぐ。あ。ん。さ。る。が。け。じ。ま。る。る。な。器。り。が。れ。新。し。う。ら。奇。番。な。  
 る。の。百。も。兼。知。で。居。て。さ。う。も。食。ら。ぬ。不。ぞ。其。対。女。五。六。な。夏。あ。り。  
 て。の。流。石。不。各。位。も。不。ぞ。ま。ら。う。て。冷。ち。や。ア。い。う。移。入。さ。う。お。止。く。と。ら。  
 云。て。真。の。料。理。お。あ。り。と。な。ア。く。い。お。め。入。こ。ち。も。実。う。あ。め。ぐ。り。う。  
 一。家。う。通。は。き。合。て。這。入。る。さ。か。く。さ。よ。あ。ん。な。子。あ。じ。

け。め。り。ん。じ。ら。う。の。う。行。福。入。で。仕。合。な。ぜ。そ。ん。な。悪。洒。落。を。け。め。り。ん。じ。ら。う。











は...お取...後入...おと...おと...おと...

がよ...子。のの...お雛...がよ...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...

う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...

う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...

う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...

う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...

う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...

う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...

う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...  
う...おさ...ひる...







まへへしでまへへしへへしとては縁や路のまへへしひし

スウくとしひなぐらうけておるまへへし  
其内ふ。ちいっどがわりのあまへんでね。日

これまへへしち山根の相くせまへへし  
まへへしと又翠うのまへへしひさ。まへへしうらまへへしなり。遊ぶ僕がゆめらうら。

不登ぐまへへしなまへへし。このおらまへへし。うらまへへし。すすまへへし。うらまへへし。まへへし。

よらまへへし。おらまへへし。まへへし。うらまへへし。とゆめまへへし。ひし。ゆめまへへし。おらまへへし。まへへし。

らまへへし。ゆめまへへし。ゆめまへへし。ゆめまへへし。ゆめまへへし。ゆめまへへし。ゆめまへへし。ゆめまへへし。

打まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。

能とおまへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。

あまへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。まへへし。







一人で志をくちくちくしてお出のよ...  
一人は...  
一人は...

おっくさんへ何でも知ても生ごうら。些でも三弦の弾松が遠くめと

変ふお地りごよ。つじのおうさんへ七の紫あふ踊でおをまへ

およりのご。それごうら子。地赤ごの地白ごの地黒ごの紫あ縮縮の

裾模松ごの。熱模松ごの大振袖だの。紫ごご。あ天鷲織

のや。石子板のや。何角と。お長お入く。たアんと持ておりりだ

くれど。つじのおご。さんごうらくた。ら子。皆おせごご。ア。

お婆さんごつじ。おお流ごよ。までね。お婆さんへおご。さんご

ごごら後と計おまひご。ね。らりもあへ。かご。い。ご。ご。



かゝる誓言ぢうあんでもとる筆ぎら。おは女さんのおまひま。お丸

と病ぢうごららまおると結計で対のふりませゆ人が能其

代お女と種物とよくせまらるがかんごとけ同の種物と

いふとよ。おま人もおはうけらへつけるも子。人形の衣

と二ッ種ました。アイ。アしくお用さんくトみへらるうせま中

小吉なまや。あのこととまさんと一すおえん子ぐ二人有るがう

縮緬の裁をかけたさ。マヤかん玉ゆへ着い作りごね。あの

ア。ぐらり落ゆ結居るおかさまんの頭をゆきんうい立ア



アノ人の落し結居るおかしき人の頭を切つてクイ主一更

油あぶらごとくびらいてと際くてとア角小ちひさる声をお仕しまこえて

悪わるいよおまへア角サまあらう。マヤ。おまへの杖たもとうらぬえごり落おちす

角ホイトまマまぐま盤ま結まひの裁まごと一粒ま席ま子まウまアまアま麻ま

のまもよまの移ま入まのぬまはま四ま郎ま席ま子まとアまとよまアまくまハま

おろまんお移まごうてね。あの路ろ考考茶茶とね。不ふ郎郎者者おそそをを

りふひりははここの移ま入まここじじハハ子子。今いま着まて居いる伊い豫よ流りゅう居い

不ふ郎郎者者おおままへへののももをを織おりりアア是これハハ子子田た舎しゃウウ

掛かののここにに取とりり安やすいいととここアアおおろろままんんががらららら中ちゆうおおろろままごごトト































54 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事...

江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事...

江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事...

江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事...

江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事...

江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事...

江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事...

江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事...

江戸の事... 江戸の事... 江戸の事... 江戸の事...











ふどりのほとろろ。半襟はんせきの白粉おしろいは深こほめて地ぢがうろりのませんのはやい

お結むすでござらまじろ。十五せん銭せんや廿四えん銭せんの紅粉べんハ二日ふたひうと一日いちひにあらそく

志しまひまと。まおまはけけてえ結油むすあぶらも兼かね未まよよ志しひひままととううらら孔方あなの

志しひひ方かたが荒あららううござららままと▲イエモウい何なに方かたも同どうじじとときき着替きか替かもあるあい

くせく能物のうぶつ好このむ。金元かねもとを働はたらくくふもななけけはは後ごでで方かたなりなりお志しややくくと

ああごごううままととうう。おおののくく金元かねもとを立たままらら内うちのの古ふるいい着物きものをを着きて

足袋たびも古ふるいいのと履替はきかええれれと毎日まいにちくくははのの破やぶくくううるるととややととが

ままととまませんせん。ささららししてておお彩いろのの足袋たびもも襦じゆ袢たんもも濡ぬ臭くさららししののででひひままと

のの志しひひ方かたがが荒あららううござららままとと▲イエモウい何なに方かたもも同どうじじとときき着替きか替かもあるあい







女のゆりぐとら物へ白本袴二布よ規と物で膝うへへむる物

てふる上の方のゆりぐとら女中をえさる中い羽二重とらうが

結ぐらうが皆短くゆりぐとら下都の人とら

業ぐとらるッサ女郎とら好夢の昔の風と癡と万の長し

中ぐらう長ゆりぐとらなるとらゆりぐとら止るゆりぐとら

とて異見のじましたる。それとも知りつ。ア人の馬鹿が炭布

のゆりぐとらから本袴の長ゆりぐとらとちんとちあはしむる。●ゆりぐとら

ゆりぐとらゆりぐとら●ゆりぐとら●ゆりぐとらゆりぐとらゆりぐとら



つめても... ● ぬえまり... 吐きも...

おせんア... ● イエモウ... 慌て物で... 著物...

て

もまあふ洗滌でも... おせんア... 著物...

おひえ

布子も着... 小襦... 長へ...

おき

壺... 兎角針... 仕組仕方...

ぬ

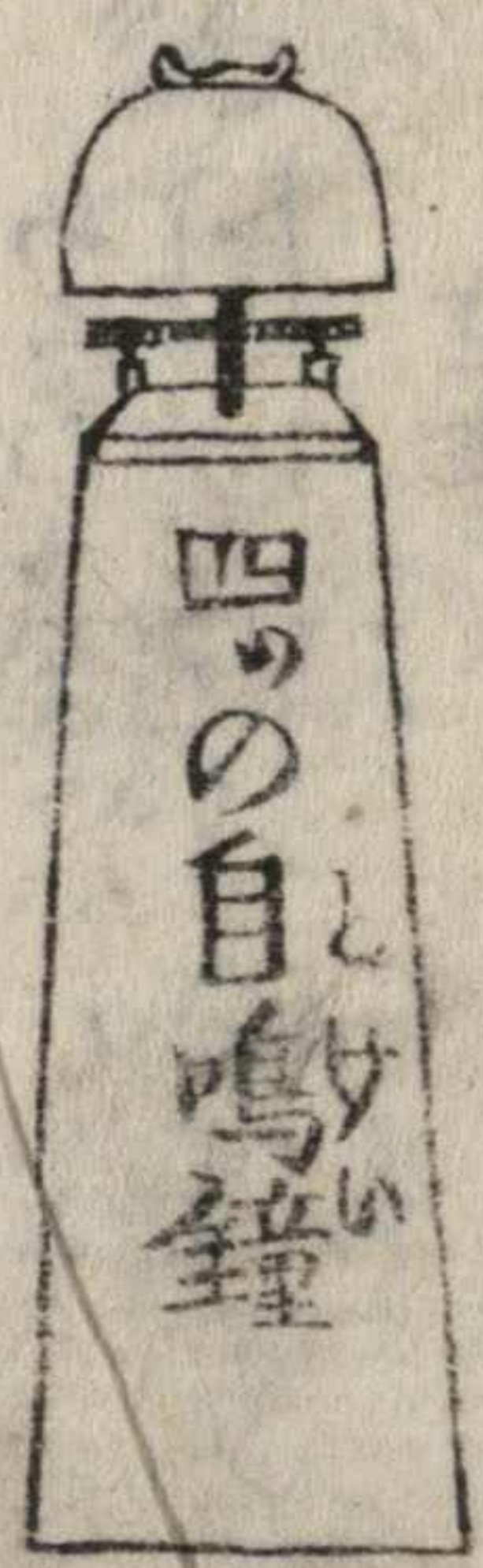
の物... 小襦... 仕組仕方...

ぬ

お上り... 小襦... 仕組仕方...

ぬ

はせ... 中より... 折る...



お上り... 小襦... 仕組仕方...

チヤン

お上り... 小襦... 仕組仕方...



















おしづぐらう。そんな格や簪とんも買ひもあつた。まうん

る。おしづぐらう。年々の給金が不引拂さ。そのやうな。おしづ

伯父さんのものを待たる。おしづぐらう。おしづぐらう。おしづぐらう。

伯父さんでもおしづぐらう。おしづぐらう。おしづぐらう。おしづぐらう。

川谷の同屋へ仕切とまふ。おしづぐらう。おしづぐらう。おしづぐらう。

内て給金を借やうと。おしづぐらう。おしづぐらう。おしづぐらう。

おしづぐらう。おしづぐらう。おしづぐらう。おしづぐらう。

おしづぐらう。おしづぐらう。おしづぐらう。おしづぐらう。



おれくみん入るの懸るへ遠ねおれくも入るもあはれははも中(ま)

からうよのううかかままししののゆゆののぢぢやや移移入入へへ。そそうう入入じじちちややややううま

ああのの知知のの内内どど其其癖癖よよののどどけけああくくそそのの。ままりりうう移移入入ららままとと年年あ

のの破破くくままりりとと海海産産二二切切ととああくく葱葱菜菜ととししのの糸糸がが尾尾藻藻の中中へへひひて

とと二二足足精精近近日日がが蒸蒸和和布布にに油油揚揚のの細細くくししののみみがが二二切切店店のの荒荒ててんんどどお

料料理理茶茶をを這這入入ととしてしてううままのの物物ののこことと食食ととももるるらら能能ががここららささうう

ととけけちちうう移移入入ららままとと癖癖まま奴奴ととううままのの物物のの食食ががななれれどどのの内内ののままのの

ああののええせせいいどどううののああれれがが悪悪ららまま。ししももののどどけけ移移入入ああらら。ててんんどどもも食食

ままふふ居居りりややああまま。似似とと物物ののまま婦婦とと中中ととれれももくく憐憐のの移移入入代代也也ささ。







わきの物よのうへ聴みとらひていふ業なきに足袋一日年よふ

孔方と二百口のなつが。ちるこいまひもまはらうよ。其代よ元日一ま

かいら言ひし日づも常るひも未練いも申へり。いづへいづへくと

著の上下いづへいづへせ入イヤらるせ入の飄草のこゆゆはもも及ら

とぞかかひしきしめしむらら移入る。それうら入りやア。お猿どんの

西あんざら。社且お花ご何連不自由が。守一書がはまらねて

鞆社りさ。みらお化くら入りやア。うだされどあ入まら社とのね

のよ。いぬめなむし。其のなをう中へかぬや。何にんか。其の口入

身よ。いぬめと。いぬめと。小指のうらぬを。其の。二月と。ま



物のいそぶしい物ごら。用でも仕舞て行が社とぬるきア。そらやア

百も羨必怨ごたれど。松の内ハ早仕舞あり。そらちとらさる内這入

換ふら。ちんも早いよるまよふおらごらう。這入

唇をうら。さるくふたきうてよし。もよささるる物ごら。依估税

悪人よ。ちんが内あんぎア。祝指が是式とらふりごら。トたりの

とて仲らさる客あら。いさる。はらふひよ。えさくてもね日ぐれ

一日四時と待らう。返したう。ゆれももおさわるせ入。下手る料は

の抱ら。令伴酒客ら。奴ら人の想像の移入ら。他の

あつた。中見の。子。中



のぼり... 金侍渡着... 入の想像の... 仕の

まて... 入... ぬが... 神兒の... 好... 味... ね... 我中

まて... 居... 夜深... 早更... 結... 酒... 早... 疾

も... 利... 後... 腹... 朝... 疾... 病... 碎

まの... 痛... ぬ... せ... 食... して... え

ま... 云... 八... 九... 記... 念... 人の... 患... 疾... 料... 疾... 疾

ま... 花... の... 小... 言... 言... 疾

ま... 何... 疾... 疾... 疾

ま... 疾... 疾... 疾

ま... 疾... 疾... 疾



此物造さんへつらうことお方さ一伴も慈悲ほいらうるぬる者の仕合

トおつとるをえサア言入らう中てうぶじ合らうウニヤ。まう

あてふわれ秘人今ゆ九うがづらう早くなるてお町のまな

とせもやまいねも入にふの味傍の新考うら入もや。あるらり

おる油のお新考うさ「そりや」奇持ごのう。おら「おもおる油」ト

「とびう」ごる女めトおへのせうと「うて

痛へおあさん何ごみ浮虚考あ入ふごひあさんま。おめ入の傍へ

倚ると色うあわじしてあは「ア」ニまのら無考たそのちのめ







でもやて居る「まゝ」のおせごの「アイサ」も「お辭」さんの「お

美く徳利ちやアね入のま「伎」徳利を「模例」でも「よ」の「よ」の「ちや

教る「ぬ」考「ご」も「入」の「ま」に「餅」つ「ま」や「せん」「何」ご「ら」が

ト「ゆ」を「さ」る「て」か「け」る。又「は」ら「ら」か「ら」の「ま」を「ひ」く「と」あ「方」う「ら」加「強」が「物」で「ま」ら

「は」て「風」居「の」中「で」大「き」な「ま」ぎ「ゆ」る「ふ」け「時」風「居」の「ま」を「ふ」か「ぎ」み「居」ら「ら」ん「ざ」り

「ヤ」イ「く」は「め」は「め」ら「ら」何「ご」ま「け」や「ら」ら「ら」中「ら」は「し」い「何」の「ま

「ら」あ「ら」の「ま」を「入」湯「ら」を「移」て「足」こ「え」や「ら」れ「天」堂「う」も「ゆ」を「あ」し「て

姉「ま」ん「が」お「一」お「あ」ま「ら」の「お」侍「け」の「あ」め「ら」ん「悪」く「ま」い「や」ら「る」。



姉さんうお一お生まひんら惣侍はの奴ぢんや豊へんぢぢやアア

らぬらむらし買切居る湯ぢアアのんターのんお人ねもひた

らるあ人後へねお井方圓の奴等ぢアア後へんコロ人んとあ

て世と熱らとあ湯も煙ぢアアらがるせ人らあぢぢぢぢ

這へ居るのぬぬぬぬぬぬぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

くぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

あぢへ。ゆの中中とにたいはしてしけ猪ぐしゆゆぢぢぢぢ

是ぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

跡を跡へんらとすうらあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ



湯の中へ糞とくれて鬼渡や捉迷藏も仕舞ひ片端うらまよ

びきちと一転くお迷入まやアアア移入ぞ。えんみんを明を志や

かれトあまきてあまけつけれは五人のあちあつひら。らたモシくおろこま

お獲きたる移入をでじちのまを何れやとも若人なむいから。

跡先の幼舞はじでさうのあまを初まあく彼をがめりてあま

お快くごさうまをぬらう。とらそはあまのまらうて集まつは「ま

あへんらちらぬもまらうア移入る者らうりねま人のめりてお

今の世世界ちやア集くと食うた移入るもの。年回固らやア移入







ハテさへおや入とおされてらん人ハあつれません女おとねるちどあつ

湯も浴せと小くあつて屈て居るが猫糞ぞちやアくまぢらゆ

コト姉さんといんさん居て尻もやの用心あや舌の先きまさく湯が終後

お産うまやアひつ身りんで入とさつやこ小判小粒が噴く吐きとくて欠付からけ

おつおつろはく雷の暈か天あくららつららくくいいいい地ち震しんの尻しの毛けまで

百も羨知うらふらアアおおららいいががエエモモいいわわ子こおお子こ方かがが有あ余あく

と賣うりり代だいええややちちぢぢとと發はれててもも姉あいいづづよよハハンン癩か生せヲと何な何な

云いでもも流り合あがが終し入い不ふ肖せうしてて中ちゆういいののトトワワタタととぬぬららおおれれとと一いち緒じゆよよ歩あ



云々も洋人が移入不肖して中々のトウタもぬらぬらと一猪も歩

移入。屠獲もたつき牛屠も昔も出でくら。さうけ止の古風を

餅も搗とよ。角大と抱て紐菱五とら正月ご。歩むり。例取

行て。そく人ちいで四文二合半ときやべら。アノくおぼくうとあり

猪鹿の料理屋

はせう。モニエ。おや入方ゆ不引撃もさるみとら。あまのゆさ。

今度くらた。あつこもたす。モニあつこさん。私う拭くあけませう。ト

てねぐひでかまの。私ん足でもね。むじ風のねまう大好さ。あうも一風

奇の身子で。一風を舞とやまよと私ん。各と舞知ぐ。他を

あふ移入惜り耐止ま。今ごと判者よあつて。おまう。一風を











るの今胡<sup>サキ</sup>やどの判物<sup>せんぶつ</sup>の振<sup>ふる</sup>どア<sup>ア</sup>くく<sup>く</sup>それでも<sup>うらよ</sup>奇<sup>き</sup>蹟<sup>せき</sup>どア<sup>ア</sup>くく<sup>く</sup>

猛<sup>まう</sup>きお<sup>お</sup>くこと<sup>こと</sup>さ<sup>さ</sup>えの<sup>の</sup>公<sup>こう</sup>と<sup>と</sup>和<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>げ<sup>げ</sup>る<sup>る</sup>も一<sup>いち</sup>風<sup>ふう</sup>口<sup>くち</sup>い<sup>い</sup>ぬ<sup>ぬ</sup>が<sup>が</sup>お<sup>お</sup>れ<sup>れ</sup>種<sup>しゅ</sup>あ<sup>あ</sup>り<sup>り</sup>る<sup>る</sup>也<sup>や</sup>

ア<sup>ア</sup>く<sup>く</sup>ト<sup>ト</sup>弟<sup>あに</sup>ふ<sup>ふ</sup>門<sup>かど</sup>あ<sup>あ</sup>福<sup>ふく</sup>大<sup>だい</sup>馬<sup>ま</sup>当<sup>あつ</sup>年<sup>ねん</sup>の<sup>の</sup>惠<sup>めぐみ</sup>方<sup>かた</sup>く<sup>く</sup>庭<sup>にわ</sup>よ<sup>よ</sup>飛<sup>と</sup>ひ<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>

打<sup>うち</sup>も<sup>も</sup>や<sup>や</sup>せ<sup>せ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>七<sup>しち</sup>福<sup>ふく</sup>神<sup>かみ</sup>の<sup>の</sup>宝<sup>たから</sup>秘<sup>ひ</sup>と<sup>と</sup>唄<sup>うた</sup>ふ<sup>ふ</sup>る<sup>る</sup>追<sup>お</sup>詰<sup>つめ</sup>共<sup>ども</sup>つ<sup>つ</sup>也<sup>や</sup>

声<sup>こゑ</sup>長<sup>の</sup>閑<sup>とら</sup>る<sup>る</sup>

志<sup>こゝろ</sup>ろ<sup>ろ</sup>ぎ<sup>ぎ</sup>け<sup>け</sup>志<sup>こゝろ</sup>ろ<sup>ろ</sup>酒<sup>さけ</sup>

あ<sup>あ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>く<sup>く</sup>あ<sup>あ</sup>ぢ<sup>ぢ</sup>て



浮世風呂三編卷之上終



28090

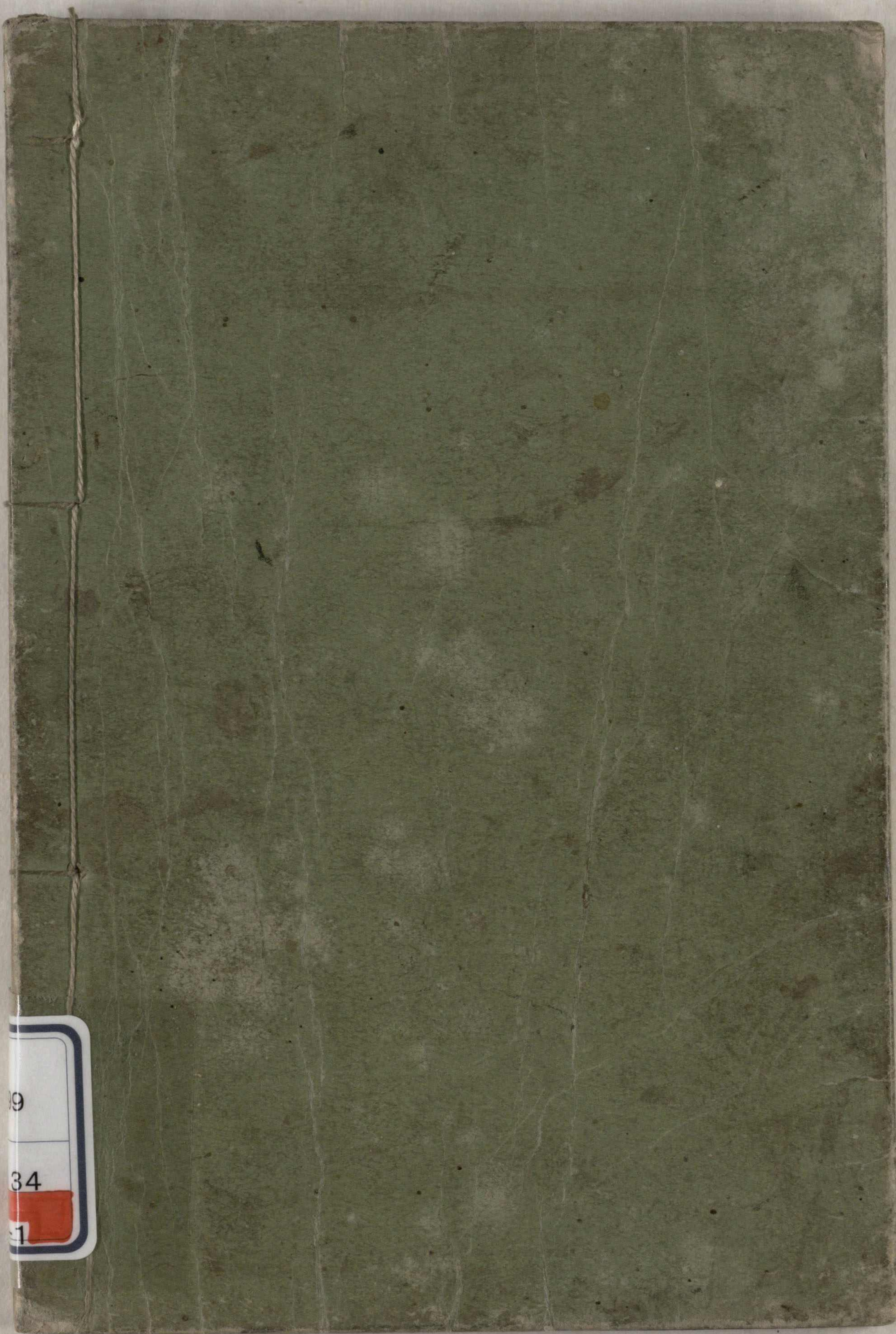
淨世風呂三編卷之上終

国立国語研究所



1001952355





9  
34  
1